

5/26 1,900 人が水害対応をチェック 令和6年度 岩木川総合水防演習

岩木川流域の13市町村と県、国土交通省東北地方整備局は鶴田町野木の岩木川河川敷で岩木川総合水防演習を行い、関係機関など約1,900人が洪水などの災害対応の手順を確認しました。

水防演習は東北6県が持ち回りで実施。本県での開催は8年ぶりとなります。

演習では、大雨で岩木川が増水し河川氾濫などの警戒が必要な状況を想定して行われました。岩木川流域13市町村の水防団は土のうを積むなどの水防工法を訓練しました。



水防工法の訓練を行う鶴田町水防団



蛇口の取り替えを行う会員たち

6/3 町高齢者世帯の水回りを点検・修繕 上下水道協会 水道週間ボランティア

鶴田町上下水道協会（山田松男会長）が町社会福祉協議会と協力し、水元地区の高齢者世帯や保育施設などの水道設備の点検・修繕ボランティアを行いました。

同協会のボランティア活動は毎年6月の「水道週間」に合わせて行っており、この日は協会に所属する町内8業者が参加しました。

水元保育園を訪れた会員たちは、日ごろ子どもたちの昼食を作る炊事場の蛇口を点検し、新しい蛇口を取り付けていました。

6/6 子どもたちのため遊具を塗り替え 五所川原塗装工業会 大型遊具の塗装ボランティア

西北地域の塗装業者でつくる五所川原塗装工業会が富士見湖パークにある大型遊具の塗装ボランティアを行いました。

同会は昨年より富士見湖パークでの奉仕活動を行っており、この日は会員13人が参加しました。会員たちはペンキが剥がれていた大型遊具の柵などをきれいに塗り直していました。また、同パーク内の観光施設「ここにもあるじゃ」の花壇などの塗装を塗り直していました。



大型遊具の塗り替えを行う塗装工業会のメンバー

地域おこし 協力隊通信

Vol.69 (筆：毛利 精悟)

今回は移住者としての【鶴田町での生活パート1】です。
4月から町内会の班長になり、月2回の広報配布などを行っています。先日町内会の《資源ごみ回収》に参加しました。

私がいる町内会では2か月に1度、段ボールや古新聞、缶などの資源ごみを回収し、業者に買い取ってもらい、その売上を町内会の活動費の一部としています。資源ごみを通常のごみ収集に出すと、町が業者にお金を払って処理してもらうことになります。ところが町内会で集めて処理できれば、町のゴミ処理費用も少なくなります。町がゴミ処理にける予算を他に回せば良いですね。

私事ですぐ町内に中古住宅を購入しました。空き家でしたが前の持ち主さんが家の中の残置物をきれいに処分してくれて、空っぽの状態から進められるのでとてもありがたいです。今後少しずつDIYで手をいれていきます。



左：回収で集まった大量のダンボール 右：毛利近影(資源回収後)



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。



今年も大人気だったさつま町直送のかぼちゃ

6/15 県内外の名産品が集まる 道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」23周年記念祭

道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」は開業から23周年を迎え、記念のセレモニーが行われました。会場では県内や県外の15の道の駅が、それぞれの名産品などを販売していました。

町の友好交流都市、鹿児島・さつま町のカボチャや、新潟・長岡市の鮎の塩焼きなど、各地直送の名物が人気を集めていました。

また先着150人限定で、町特産のスチューベンを使った特製のあんが入った「スチューベン大福」が振る舞われ、大勢の人でにぎわいました。

6/25 全国大会での活躍誓う 少年野球 鶴田 BBC 全国大会出場報告会

鶴田 BBC は7月27日から30日に高知県で開催される「第13回坂本龍馬旗争奪西日本小学生野球大会」に出場することを相川町長へ報告しました。

同チームは「青森県ジュニア学童野球選手権2023」において好成績を収め、全国大会出場を勝ち取りました。町少年野球チームの全国大会出場は約20年ぶり2度目です。

報告会では、主将の高橋航大さんが「全国大会という大舞台で緊張するとは思いますが、自分の力を十分に発揮し、精一杯頑張ります」と大会への意気込みを語りました。

また、町の若手経営者でつくる「鶴田れちおん倶楽部」(事

務局：青森銀行鶴田支店)が、同チームの全国大会出場の遠征費に充ててもらうために寄付を行いました。

寄付金を手渡した瓜田稔会長は「子どもたちには練習の成果を発揮して、大会を楽しんでほしい」と話していました。



全国大会での活躍を誓う鶴田 BBC



ダンボールベッドを組み立てる鶴中生

6/25 いざという時にどう対処？ 鶴田中学校 避難所運営訓練

鶴田中学校3年生が避難所を開設する訓練に参加しました。生徒たちはいざという時にどう対処すればいいのか、訓練を通して多くのことを学びました。

講師は一般社団法人男女共同参画地域みらいねっとが務めました。運営役の生徒たちが5つのチームに分かれ、各チームの生徒たちは仕切り板やダンボールベッド、トイレといった避難所に必要となるものを「どのようにすればスムーズに組み立てられるのか」話し合いながら作業を行いました。

地域おこし 協力隊通信 Vol.70 (筆：帯川 匠)

今年の4月に協力隊として着任し、師匠の下でスチューベン栽培に携わり、はや3か月。芽掻きや新梢の誘引から始まり、今はぶどうの房作りをしています。

ただ房作りは作業が繊細で難しいため、絶賛困難を極めています。ぶどうにとって重要な作業なので一生懸命取り組んで参ります。

意気込みを伝えた上で、ここで1つ予想外なことがありました。6月下旬の段階で、予想以上に暑い。関東と比べても同じくらい暑いと思いました。暑いことはどうしようもないですが、入念な対策、無理をしすぎないことを念頭に置いて乗り切ろうと思います。

皆さんも熱中症には十分に気を付けて行動していただけたらと思います。



▲ぶどう農家になるために修行中の帯川さん

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を「地域おこし協力隊員」として町が委嘱。隊員には、地域おこし支援や地域協力活動を行っていただき、その地域への定住・定着を図る取組。